

6月1日は[政府要請の「就活選考開始日」](#)～「自分にとっての幸せな仕事とは？」を考えるきっかけに

幸せな仕事に関する実態調査

現在の「仕事に対する幸せ度」、最も低いのは“Z世代”

若い世代ほど「仕事に対する幸せ度」が低く、Z世代は[26.5%]、片やバブル世代は[41.0%]

株式会社夢真ビーネックスグループが運営する「幸せな仕事総合研究所」では、働く10～50代の男女・合計800名を対象に「幸せな仕事に関する実態調査」を実施しました。

< 調査結果サマリー >

① 働く10～50代の男女に聞いた「仕事に対する幸せ度」

- ☑ 「仕事に対する幸せ度」平均点は約60点
- ☑ そのうち「幸せ度80点以上(=幸せな仕事に就いている)」は約3割

現在の「仕事に対する幸せ度」を100満点で評価すると平均点は60.1点。そのうち、特に仕事に対して幸せを感じている「幸せ度80点以上の人々(=幸せな仕事に就いている人々)」の割合は約3割。また、「幸せ度が平均点以下の人々」からは「年功序列の風潮」「セクハラ発言」「給与が上がらない」などの声も。

② 世代別・婚姻状況・男女別の割合

- ☑ 「幸せ度80点以上」、最も少ないのは「Z世代」、「バブル世代」と比較して14%以上も低い

若い世代ほど「幸せ度80点以上の人々(=幸せな仕事に就いている人々)」の割合が少なく、「Z世代」は僅か26.5%と判明。最も割合の多い「バブル世代」では41.0%と、世代間で14ポイント以上の差が付く結果に。

③ 仕事に対する幸せ度と金銭事情

- ☑ 今夏ボーナス見込み、平均は“給与2.7か月分”
- ☑ 「80点以上の人々」と「平均点以下の人々」では、ボーナス支給額に給与0.8か月分差が

今年の夏季ボーナスの見込み額の全体平均は「給与2.7か月分」。「80点以上の人々／給与3.3か月分」に対し、「平均点以下の人々／給与2.5か月分」と、約0.8か月分の差に。

④ 『マズローの6段階欲求説』を元に幸せな仕事を定義すると

- ☑ 現代における「幸せな仕事(職場)の条件」は、「社会的欲求」が満たされていること!?
- ☑ 「現在満たされている欲求」、全段階においてZ世代が最も低く、バブル世代が最も高い

「80点以上の人々」と「平均点以下の人々」へ「現在の仕事において満たされていること」を調査したところ、『マズローの6段階欲求説』において「社会的欲求」に当たる項目への回答にギャップが生じる結果に。また、6段階欲求全ての「満たされている割合」について、全世代の中でZ世代の平均値が最も低く、バブル世代が最も高いとの結果に。

文中の省略表記について	正	省略表記
	幸せ度80点以上の人々	80点以上(の人々)
	幸せ度が平均点以下の人々	平均点以下(の人々)

調査概要	[調査方法]インターネット調査 [調査時期]2022年4月28日～5月1日 [調査機関]シグナルリサーチ [調査対象]働く10代から50代の男女 計800名★ ※性年代均等割付
	★Z世代:18～26歳／ミレニアル世代:27～42歳／氷河期世代:43～51歳／バブル世代:52～57歳、各200名

① 働く10～50代の男女に聞いた「仕事に対する幸せ度」

- ☑ 「仕事に対する幸せ度」平均点は約60点
- ☑ そのうち「幸せ度80点以上(=幸せな仕事に就いている)」は約3割

働く人々の「仕事に対する幸せ度」ってどれくらい？



最高値100点として、現在の「仕事に対する幸せ度」を全対象者に伺ったところ、平均点は60.1点との結果になった。そのうち、「幸せ度80点以上の人々(=幸せな仕事に就いている人々)」は約3割だった。

さらに「幸せ度80点以上の人々」の「その仕事が幸せと感じる理由」を確認したところ、以下の通り<各自のライフスタイルに合った働き方を実現していること>を挙げる声があった。

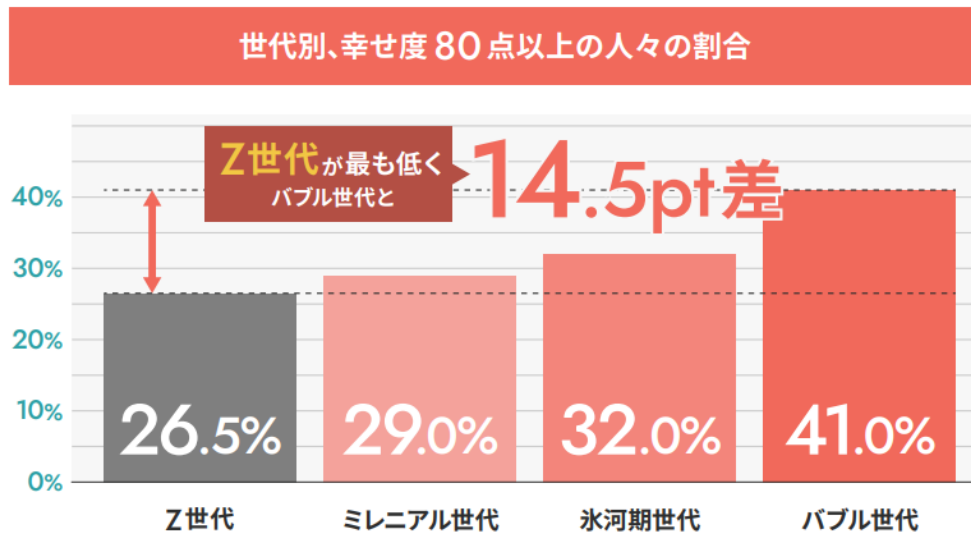
56歳・男性 バブル世代	休暇を取りやすく、家族サービスに時間を割きやすい環境である。
45歳・女性 氷河期世代	有給も取りやすく、残業もないので、家庭との両立や自分の時間を持てる。

一方、幸せ度が平均である60.1点を下回った「幸せ度が平均点以下の人々」の、「その仕事が幸せと感じることができない理由」を確認したところ、以下のような声が挙がった。

32歳・男性 ミレニアル世代	正当な評価をされているのか分からない。
25歳・女性 Z世代	年功序列の風潮が強く、セクハラ発言も気になる。給与もなかなか上がらない。

② 世代別・婚姻状況・男女別の割合

☑ 「幸せ度 80 点以上」、最も少ないのは「Z 世代」、「バブル世代」と比較して 14%以上も低い



世代別に「幸せ度 80 点以上の人々(=幸せな仕事に就いている人々)」の割合を比較すると、最も少ないのは「Z 世代(26.5%)」との結果に。次に「ミレニアル世代(29.0%)」、「氷河期世代(32.0%)」、「バブル世代(41.0%)」と続き、現在の仕事に対して、若い世代ほど「幸せな仕事に就いている人々」が少ないことが判明した。

さらに、同様の回答結果を婚姻状況別に比較すると「幸せ度 80 点以上」と回答した人の割合は、「既婚者:42.9%」、「未婚者:24.3%」と 18.6 ポイントの差が生じ、既婚者の方が仕事に対する幸せ度が高いという結果に。

一方、性別では「男性:32.0%」、「女性:32.3%」となり、男女間では大きな差はみられないことが分かった。

③ 仕事に対する幸せ度と金銭事情

☑ 今夏ボーナス見込み、平均は“給与 2.7 か月分”

☑ 「80 点以上の人々」と「平均点以下の人々」では、ボーナス支給額に給与 0.8 か月分差が

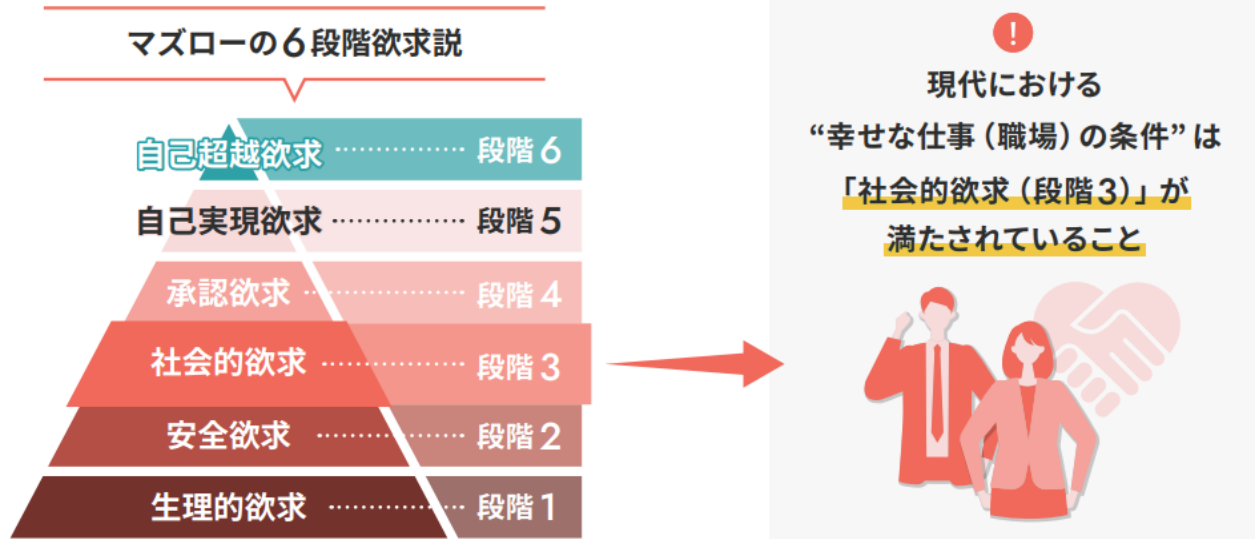


全対象者に対して『今年の夏季のボーナス、見込み支給額』を尋ねたところ、平均額は「給与 2.7 ヶ月分」となった。また、夏季ボーナスの支給額において「幸せ度 80 点以上の人々(=幸せな仕事に就いている人々)」と「幸せ度が平均点以下の人々」で比較すると、「幸せ度 80 点以上の人々:給与 3.3 ヶ月分」、「幸せ度が平均点以下の人々:給与 2.5 ヶ月分」となり、ボーナスの支給額に給与 0.8 ヶ月分の差がある結果となった。

④『マズローの6段階欲求説』を元に幸せな仕事を定義すると

- ☑ 現代における「幸せな仕事(職場)の条件」は、「社会的欲求」が満たされていること!?
- ☑ 「現在満たされている欲求」、全段階においてZ世代が最も低く、バブル世代が最も高い

「マズローの6段階欲求説」を参考にした幸せな仕事(職場)の条件とは?



アメリカの心理学者アブラハム・マズローが提唱した『マズローの6段階欲求説』を参考に、幸せな仕事(職場)に求められるであろう要素12項目を設定。『仕事において現在満たされている項目』と、幸せな仕事(職場)を実現するため『仕事において今後(も)満たしたい項目』について伺った。

欲求種	段階	幸せな仕事(職場)に求められるであろう要素12項目	
自己超越欲求	6	自分の仕事で、世界の平和や安定に貢献・寄与する	ボランティア活動などができる(推奨される)制度・社風がある
自己実現欲求	5	自身の能力を最大限発揮して、勤務先(事業)に貢献する	給与や社内評価よりも、自身の理想の姿を実現するために働く
承認欲求	4	上司から認められたり、社内表彰をされたりする	業績を挙げれば、昇進・昇格できる制度がある
社会的欲求	3	頼れる仲間、理解のある上司、認めてくれる家族がいる	勤務先の中で自分の居場所を確保できている
安全欲求	2	給与が毎月決まった日に振り込まれる	倒産や買収、あるいは解雇される不安がない
生理的欲求	1	十分な睡眠、休息が取れる労働環境である	十分な食事など、基本的な生活を不満なく送ることができる給与である

『仕事において現在満たされている項目』に関し、「幸せ度80点以上の人々」と「幸せ度が平均点以下の人々」の差異を確認したところ、ポイントに大きな差が生じた項目TOP3は以下の通り

	現在満たされている項目	回答割合		差異
		80点以上の人々	平均点以下の人々	
1位	頼れる仲間、理解のある上司、認めてくれる家族がいる 【社会的欲求:段階3】	44.0%	18.7%	25.3%
2位	勤務先の中で自分の居場所を確保できている 【社会的欲求:段階3】	51.4%	28.8%	22.6%
3位	十分な睡眠、休息が取れる労働環境である 【生理的欲求:段階1】	61.1%	40.9%	20.2%

また、全対象者に『仕事において今後(も)満たしたい項目』を尋ねたところ、以下の通り【生理的欲求:段階1】、【安全的欲求:段階2】にあたる要素が上位を占める結果となった。

	今後も満たしたい項目	回答割合
1位	十分な睡眠、休息が取れる労働環境である 【生理的欲求:段階1】	62.9%
2位	給与が毎月決まった日に振り込まれる 【安全欲求:段階2】	56.9%
3位	十分な食事など、基本的な生活を不満なく送ることができる給与である 【生理的欲求:段階1】	50.0%
4位	倒産や買収、あるいは解雇される不安がない 【安全欲求:段階2】	35.3%

このことから、現代における”幸せな仕事“(職場)を「マズローの6段階欲求説」に基づいて定義すると【生理的欲求:段階1】、【安全的欲求:段階2】が満たされていることが前提に、さらに【社会的欲求:段階3】が満たされているか否かがポイントとなることが分かった。

●『マズローの6段階欲求説』の「社会的欲求:段階3」

集団※への帰属や愛情を求める欲求であり、「帰属欲求」とも表現される。何らかの社会や集団に属することで「安心感を得たいという」欲求が、我々人間には有ると言われる。

※集団:今回の調査では勤務先や仕事場(仕事仲間の集団)など

また、6段階欲求全ての「現在の仕事において満たされている割合」について、全世代の中でZ世代の平均値が最も低く、バブル世代が最も高いとの結果に。

欲求種	段階	平均値／現在の仕事において満たされている割合		
		Z世代(18~26歳)	バブル世代(52~57歳)	差異
自己超越欲求	6	56.9%	73.8%	16.9%
自己実現欲求	5	65.6%	70.9%	5.3%
承認欲求	4	56.3%	68.6%	12.3%
社会的欲求	3	63.7%	68.0%	4.3%
安全欲求	2	57.2%	62.8%	5.6%
生理的欲求	1	62.0%	69.8%	7.8%

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

この<幸せな仕事に関する実態調査>から、『幸せな仕事に就いている人(=幸せ度80点以上)の割合』も、『仕事上で満たされている欲求割合』も、総じてZ世代が低く、バブル世代が高いことが判明。

幸せな仕事総合研究所では、より多くの方が「幸せな仕事」に従事できるように、今後とも様々な調査や社会啓発活動を進めていきます。

株式会社夢真ビーネックスグループ<会社概要>

事業内容	人材サービス事業(派遣事業)を軸とした純粋持株会社
設立と資本金	1997年8月設立 / 44億39百万円 ※1
本社所在地	東京都港区東新橋2-14-1 NBF コモディオ汐留
代表者	代表取締役会長 兼 CEO 西田穰 (ニシダ・ユタカ) 代表取締役社長 兼 COO 佐藤大央 (サトウ・ダイオ)
上場市場	東京証券取引所 プライム市場 (証券コード:2154)
グループ企業数	国内17社 + 海外26社 / 計43社 ※2

※1:2021年12月31日現在 ※2:2022年4月1日現在

幸せな仕事総合研究所について

株式会社夢真ビーネックスグループは、パーパスに「幸せな仕事を通じて ひとりひとりの可能性をひらく社会に」を掲げ、働く人の「幸せな仕事」について日々考えています。
グループ内に設立した「幸せな仕事総合研究所」では、独自調査などからひとりひとりが考える「幸せな仕事」の指標を紐解き、社会啓発活動などを通じて多くの人が「幸せな仕事」へ向かえる環境創りを進めています。

本件に関するお問い合わせ先 : 幸せな仕事総合研究所

WEB のお問い合わせフォームから、コンタクトをお願いいたします

- ① 株式会社夢真ビーネックスグループの WEB にアクセス <https://www.yumeshin-benext.co.jp/>
- ② WEB フッターにある「お問い合わせ」をクリック
- ③ フォーム上部「お問い合わせ種別」の、「幸せな仕事総合研究所へのお問い合わせ」を選択
- ④ 必要事項(お問い合わせ事項)をご入力ください